

# 令和3年12月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

## ◎ 個人質問

12番 三宅文雄

### 1. 通学路の安全対策について

園児、児童、生徒の交通安全及び防犯対策の現状と課題について伺う。

- ①学校現場における安全教育について
- ②通学路の安全点検について
- ③通学路の構造上の安全対策について
- ④保護者、地域との連携について
- ⑤防犯カメラの設置について

8番 西村慎次郎

### 1. 「星空保護区（コミュニティ部門）」の認定を生かした今後の観光振興について

新型コロナウイルス感染症の影響は長期化しているものの、10月以降、本市において感染者数は0人（11月29日現在）で落ち着きを見せている状況であります。今後も、新型コロナウイルス感染症対策を十分取った上で、経済活動との両立を図りながら、地域経済の回復に取り組んでいかなければならないところです。

こうした中、本市においては、去る11月1日に星空版の世界遺産と称される「星空保護区（コミュニティ部門）」にアジアで初めて認定されるという大変明るい話題がありました。新聞やテレビ、ネット等で大きく取り上げられ、

観光客の増加が期待されるわけですが、今後の認定を生かした観光振興についてどのように取り組むのか、以下の4点について伺います。

- ①「星空保護区（コミュニティ部門）」の認定までの取組内容について
- ②美星町内の観光客の受け皿整備（ソフト面・ハード面）について
- ③近隣自治体や「天文王国おかやま」など、広域での連携について
- ④今後のインバウンドへの対応策について

2番 三宅孝之

#### 1. 学校給食費の公会計制度導入について

令和2年12月定例会一般質問で、学校給食費公会計制度導入について、研究しているところで慎重に協議を重ねていくとの答弁でしたが、現在の状況を伺います。

#### 2. 中学校の制服について

ジェンダーレスの観点から、生徒がスカートとスラックスの両方から制服を選択する動きが広がっていますが、本市の考えを伺います。

6番 山下憲雄

#### 1. 地域自治の推進について

##### 1) 公民館の地域活動への位置づけについて

地区公民館は、社会教育施設や地域コミュニティ活動の拠点として、各地域の団体活動及び地域行事の推進にも重要な役割を果たしている。

しかし、人口減少問題や少子高齢化の急速な進展により、社会情勢の変化を背景に地区公民館に求められる役割も多様化してきた。従来から地域づくりに

関わっている人材の高齢化が進み、公民館事業や地域行事への参画が不足している。こうしたことから近い将来、幅広い世代が地域活動を通じて地域基盤を維持することが難しくなると予見される。

市民参画と協働のまちづくりが求められているが、地域によっては自治会、各種団体、まちづくり協議会及び公民館の役割分担が不明瞭なまま各事業が行われ、その結果、事業が重複して各事業関係者の多忙につながっているのが現状である。このように地域活動には大きな課題がある。

行政は、これからの公民館活動の意義について再認識を行うべきと考える。そこで、以下の5点について本市の考えを伺う。

①地区公民館職員の勤務日数・勤務時間、事務分掌及び処遇について伺う。

②地区公民館の利用者数について、平成27年度から平成30年度の推移を伺う。

③公民館は地域づくりの拠点施設として各種団体による利用、まちづくり協議会や各種団体の事務局としての役割を持つと思うが、市が目指す公民館機能が果たされているか見解を伺う。

④市町村の設置する公民館の主事は教育委員会が任命することとなっている。地区では公民館職員の担い手を探すのに苦心しているのが現状である。このことについて、本市の見解を伺う。

⑤公民館には地域づくりのコーディネーターとして各種団体や住人を結びつける役割を果たし地域課題の解決を目指すことが期待されている。本市の公民館職員の能力向上を図るための講習や研修について実施状況を伺う。

## 2) 地区自治会と行政の関係について

自治会は、これまで地域の暮らしの様々な問題を解決してきた。市民にとって最も身近な組織は各地区の自治会であった。しかし、少子高齢化などで活動自体がマンネリ化、低迷の問題を抱えている。その上、自治会への加入率の低下などにより地区の組織力が弱くなり、自治会の存在が時代の波にさらされつ

つある。

各地区は本市を構成するセル（細胞）といえる。自治会の組織力が弱くなることは本市の不活性化を意味する。自治会には少子高齢化や過疎化を踏まえた地域コミュニティ再編の問題を考えることが求められている。現在は自治会役員のほとんどがシニア男性である。自治会は子育て世代、女性や子供にとっても有用な自治会であるべきだと考える。自治会は地域自治の基礎組織として地域の抱える課題解決のための行政のパートナーである。本市においても自治会の形骸化した組織や今後の役割について一緒になって考えるべきではないか。これからの地区自治体と行政の関りについて以下の4点について本市の考えを伺う。

①本市の地区自治会数及び各自治会の加入率と自治会活動を支援している補助金について伺う。

②少子高齢化や過疎化の進展で地域住民もぐんぐん減っている。地域の住民の減少に合わせた地域コミュニティ再編を考える必要があるのかどうか、本市の見解を伺う。

③自治連合会長・自治公民館長会議が年に2回、市長のほか幹部職員参加の下で実施されており、自治会は市のパートナーとして期待が高い。市と自治会の関係性は具体的にされていないが、市と自治会の今後の協働関係の在り方について、本市の見解を伺う。

④地区では、自治会と既存の各種団体の有機的結びつきが十分とは言えない。このことについて、本市の見解を伺う。

3番 原 田 敬 久

#### 1. 国民健康保険税の子どもに係る均等割額の軽減について

改正地方税法により、国民健康保険税の子どもに係る均等割額の軽減措置が令和4年4月から実施されます。しかし、軽減対象は未就学児に限定され、軽

減される均等割額は5割にとどまっており完全実施になっていません。

国の軽減措置に本市が上乘せして子どもに係る均等割額を軽減してはどうか伺います。

## 2. 井原市奨学資金貸付制度について

本市の奨学資金貸付制度は、他の自治体と比べても充実した内容であると考えます。より利用しやすくするために、貸付条件の緩和、申し込みをする際の「個人情報閲覧に関する同意書」と連帯保証人の廃止、返還年数の延長を行ってはどうか伺います。

4番 多賀信祥

## 1. 学校内での指導上のトラブルの相談受付と解決について

本市の事案ではないが、学校内において指導とは思えない発言を教師から受け、気に病んでいる生徒の話を聞いた。学校は日常的に外部からの客観的評価や指摘を得にくい環境であると考え、このようなトラブルに対して、本市ではどのように対応されているのか、以下の3点について伺う。

①指導上のトラブルを児童、生徒が相談できる窓口はどのようなものがあるか。また、相談のあった内容の具体例について。

②トラブルが生じた場合、どのような方法で解決していくのか。

③体罰・暴言等不適切な指導に関する取組を教育大綱やガイドラインなどに明記している自治体もあるが、今後教育大綱等に定めていく考えはあるか。

1番 沖久教人

## 1. ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業について

井原市独自の取り組みとして始まったひとづくり事業も三年目を迎えています

す。ふるさと井原を愛し、ふるさと井原のために実行し、井原への確かなアイデンティティーをもった人財育成のために取り組んでいるひとづくり事業について、以下の5点について伺う。

- ①ひとづくり事業の現状について
- ②井原志民力向上について
- ③学校現場における先生方の手応えについて
- ④外部専門機関との連携について
- ⑤今後の取り組みについて

## 2. 観光まちづくりについて

コロナの収束により観光客が増加の兆しを見せる中で、本市においても「渋沢栄一ゆかりの地」を巡る団体客が増加傾向にある。

そこで、本市における観光まちづくりについて、以下の7点について伺う。

- ①市長が掲げる観光まちづくりについて
- ②古代まほろば館の来場者数について
- ③渋沢栄一ゆかりの地の整備について
- ④観光交流課と観光協会、市民団体との連携について
- ⑤観光を担う人財の育成について
- ⑥近隣市町との広域連携における観光について
- ⑦海外インバウンドに向けた取り組みについて

## 1. 3歳児健診時における弱視の屈折検査について

厚生労働省は、3歳児健診で弱視等の視覚異常を早期に発見し適切な治療につなげる「屈折検査」の導入を進める方針です。その背景には視神経の発達が6歳頃までとのものであり、この時期以前に屈折異常が把握できれば、早期の治療や訓練により弱視になることを防ぎ、また、正常な視力を獲得できると言われています。しかし、屈折検査機器を利用した検査は、全国の約3割程度の自治体でしか行われていないことから、厚生労働省は、令和4年度予算の概算要求に機器購入補助を盛り込んでいます。

そこで、本市の3歳児健診時の視力検査の状況について、さらに屈折検査機器の導入の考えについて伺います。

## 2. 観光ボランティアガイド育成について

馬越恭平、阪谷朗廬、北条早雲、那須与一など郷土が輩出した偉人や歴史的人物のゆかりの地や史跡は大きな観光資源であり、また、大河ドラマ「青天を衝け」で若き日の渋沢栄一の足跡で紹介された興譲館等は時を得た観光資源ではないかと考えます。さらには、デニムができるまでの工程や製品紹介も同様の観光資源と考えます。そうした資源を深く広く紹介していただき、本市の魅力をさらに高めてもらうための観光ボランティアガイドの育成が今、必要であり力を注ぐ時が来ていると思いますが、本市の考えを伺います。